

株式会社 小川製作所

ものづくり技術

一般型

一品一様製品への対応力を強化 オールラウンド型経営の実現を目指す

事業内容 板金加工の専門業者 多品種への対応力が強み

1977年(昭和52年)の創業時はプレス加工を専門に行っていたが、時代を経るにつれて派生的に行っていた板金加工へと事業の主軸を移すようになる。大量生産に向くプレス加工品の案件が、安価で行える海外に流れたことも背景にある。

現在は、主力得意先であるデュプログループのOA機器の板金加工の案件を多く請け負っているほか、半導体機器のカバー、マシニングセンターのカバーや医療用関連機器の外枠の加工など、幅広い業界から加工案件を請け負っている。

同社の強みは、多様な業界からの板金加工に関する案件を請け負っているため、技術面で様々なノウハウを蓄積できていることにある。その結果、得意先の要望に合わせてバリエーション豊富な板金加工の提案ができています。特に、コストに合わせた加工方法の提案や材質に合わせた加工方法の提案を得意としている。

主力得意先とは、製品の開発段階から関わることができていることも同社の強みであり、技術面での信頼も厚い。小ロットの案件もあえて請け負うことで技術を高め、ノウハウの蓄積に繋げている。

補助事業 小ロット多品種への対応が課題 IT搭載NCベンダーの導入

使用しているNCベンダーは1988年に取得したもので加工速度が著しく遅く、老朽化による精度のバラつきが生じていたこともあり、得意先や市場が求める精密機械部品への対応という点では性能面で課題を抱えていた。

また、近年、半導体機械の板金加工を請け負うようになってから一品一様(一個の製品を製造するために一つの仕様書がある)の案件が増え、従業員の作業時間の多くがこれらの小ロット品に割かれたため、生産効率が著しく低下していた。多品種小ロットへの対応力強化を掲げる会社にとって、この点の改善は重要課題となっていた。

そこで、今回の補助事業では、IT搭載による最新NCベンダーを購入、さらに同機械にネットワーク環境を割り当てることにより、設計図と加工を連動させた。これにより設計図に入力されている設計数値をNCベンダーに送り、自動で加工することが可能になる。薄い板から中板の曲げ加工が容易になり、精度面での品質向上と生産効率の向上を狙った。



株式会社 小川製作所

代表取締役 小川 正博
〒649-6433 紀の川市西三谷281
TEL: 0736-77-0515 FAX: 0736-77-0045
URL: <http://www.w-ogawa.co.jp/>

(業種)精密板金加工業
(創業)1977年6月
(資本金)10,000千円
(従業員)45人

成果

生産効率の向上が売上に直結 新たな設備投資を誘発

IT搭載の最新NCベンダーを導入・設置したことにより、製品の精度および生産効率が格段に向上し、顧客のニーズに迅速に対応することができるようになった。特に半導体機械のフレーム加工など、半導体業界向けの売上が前年比1.5倍となり、今回の設備投資が増収に大きく寄与する結果となった。

NCベンダーを導入した直後は、ITの要素が加わり、これまでとやり方が全く異なるため、戸惑う従業員がいたものの、これまでの経験を活かして習得していき、時間とともに生産効率が上がった。1人が1案件あたりにかける時間が減少したことも大きな成果である。

NCベンダー機を導入したことによって、製品の精度および生産効率を格段に上げることに成功し、増収に大きく

寄与する結果となった同社だが、さらなる生産効率の向上を目指している。次は「型抜き加工」の効率化に取り組んでいる。



今後の展開

医療機器分野への営業に注力 機械だけでなく人材の育成も取り組んでゆく

今後の方針としては、高齢化社会を迎え、さらに高齢者の比率が高まることが想定される中、安定的な需要が見込まれる医療機器分野での受注拡大を狙っていく考えである。医療機器分野は求められる品質水準もこれまでより高いが、導入した設備機器を上手く活かすことで高い品質を実現していく。現在、県外の医療関連機器メーカーとの交渉も進行中であり、同分野での営業活動を主に進めていく意向である。

技術面に関しては、新しい機械設備を導入しただけでは真の意味での技術力は上がっておらず、従業員自身の技術

向上が重要であると考え、独自の取り組みとして外部講師を招いたセミナーを行っている。仕事に対する心構えのレクチャーを受けてもらうことで、社内(工場現場)に新しい風を入れている。教育による効果は未知数だが、トップダウン型ではなくボトムアップ型の組織にすることが当面の目標となっている。

30代前半の若い従業員が多く、代表の小川正博氏も3年前に代表を引き継いだばかりで業容拡大に意欲的だ。先代の思いを継いだ小川氏の経営手腕に期待がかかる。

